

吉原評判都登里

特別
ヲ 8
3041
1



門 3041
1-2

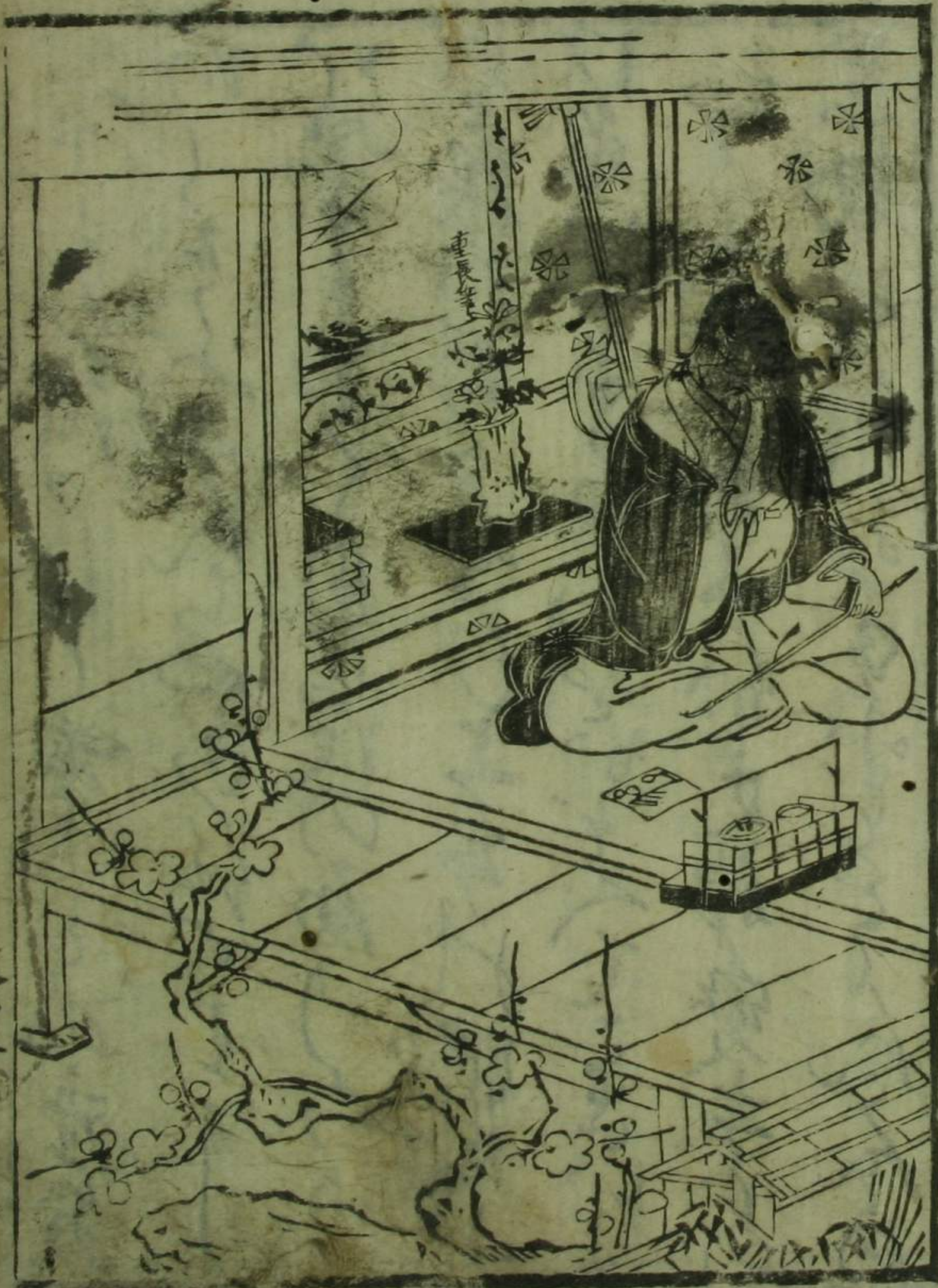
後水尾村

吉原評判都登里序

吉原評判都登里序
此係吉原都登里序

枕草紙とて奥村の好色本かと
いふまじく清少納言も耳とて
色とて吉原かといふは
翠乃志也中ノ家ノ色里乃
沢あり吉原山の厚りに
枕草紙とて

吉原かといふは



筆もら試月と華との産愛
阿くそまさんらもはゆるま
いふるもく内徳の角り
は根乃あるなひよふれ肥ひ肉にくふ
口あひまもゆえとさくといふ
知る事あつかは神愛去の
是物おほくおふとらん人の

あひつきあ可乃君様し一
もあひもくようもくくさる
あくくくく人廓くわくの評判
都みやこ登のぼりしと詠し一て全部
二冊とすし一平心
寶曆元年乙亥正月吉日

江戸所々下月た例玉屋山之部也



丈夫

常盤の松千枝つとて
花紫咲く枝花むしとてや
うたみゆらん



子格

尾上

うつとももえんおのハ先
香小舟おのの梅花を
あまひは

子格

清苑

きぬもはあやうくめでくよめ
人のまひるや竹乃由志と
うらうらん

日

たち苑

えさくく白ひはにまんとす
庭より苑を梅れよりに
からしほ

日

陸奥

苑の春もかしなそくりや
吹巻てあえさうく思風志
まを柳

丈太若

小紫

けま清をゆきとあつめて
高尾山のちかちかつけて
おそろ色に

字所きし自わりの世

軍太鼓

田じり

けさここのアキウアキ——くさみん
ぬくこのアキとち切ふきん一育の豊
少月琴の味線も能くまきしつと
おも——

おき——内

おき——

舞太鼓

けさのこのアキウアキ——くさみん
ぬくこのアキとち切ふきん一育の豊
少月琴の味線も能くまきしつと
おも——

おき——内

おき——

舞太鼓

松風

大いなる風

よき風

けしきしむかしたをなふしとておとん
りそみかたぬくみさきまのまをふ
らまうし。涙もより一音の鼻涙はう
く飛ぶと西土記をまらぬとわき
たふも面白くさう。おん風のふりも
うらたけしむかしたよか

松風

おん風のふり

よき風

けしきしむかしたをなふしとておとん
りそみかたぬくみさきまのまをふ
らまうし。涙もより一音の鼻涙はう
く飛ぶと西土記をまらぬとわき
たふも面白くさう。おん風のふりも
うらたけしむかしたよか

うしろの——一伴おのめろの歌左記今曲
まはらふ又し——なるおろし——は
えかこ地六段をもて振ひきお小鼓
乱舞かんをうのより——あるま——
わ——及びいし——

大のりや門

その節

雜段

はたこしる中一の終らむらとらとて

とぞま——ばとせんと——南まらの相あり
一伴おのめろの歌左記今曲
わ——たろうあはは——とらとらとらけハ
の終らむらとのいともあもせてまをく
わ——のなまらうまらともはらけあ
ま——もかこし——たらのまらあ
別深のあはらのまらるるのまあ——目ふ
ま——はたかこし——とらとらとらとらとら

一音の鼻のさびた琴の縁せん徳松の
好味の所存なり洋刺もなす

よし後や内

行長

松風

けさしこの中の新ひ内原の
たでうりまうれておのりな
あ^うなる^{やま}日^まの女ももそそあそび

交響のらもらり契る曲は
ま^ま一^一終^終あ^あふ^ふち^ちと^と面^面ふ^ふあ^あ
それあ^あも^も一^一俵^俵ハ^ハら^らよ^よ松^松の
お^おと^と一^一あ^あと^と一^一も^もあ^あ座^座の^のら^らく
あ^ああ^あ一^一

おき一日

おき

あひ路

あひ路

とて一にたふ舞あつり琴の味深も
ちへあつりあつりあつりあつり
しあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり

こへあつり

小武節

富太鼓

あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり

こへあつり

老神

羅成

あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつり

うへはうへむらうてあう

松風

とりんをひ

をむ

けあうさうーおりそふさしあふも
まかこきとやうあしてあわうあ
一俵あふあしてちとるあ痛らう
あうふあの子あの子あうふあう

あうのうが山やあうんあうん味あしあ
うーあふもあうーあうあうあ
せんああ信んあうあうあ

あうーあ

うーあ

養老

あうーあうあうあうあうあうあ
あうあうあうあうあうあうあ

お前さん〜〜〜
糸のあ〜〜〜
おひふう〜
比の〜

三〇〇

純本
あ

お前さん〜

見うけは〜
ら〜
お〜
う〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜

松風

まゆかた

流玉

はあ〜の白神〜うはう〜く〜んぐん
もよう〜^{まはな}散考のりもあやう〜か〜ん
入る〜の志ほ〜〜と〜作れ難^があて
志多れとぬ〜松ののち〜ろ〜ん
い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

まゆかた

流玉

松風

はあ〜の松風〜うはう〜く〜んぐん
まゆかたの流玉〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

高僧の

おな〜口

おきま〜

はさく〜いさ〜ま〜よ〜く〜一はさく〜ま〜や〜ふ〜一て
はさく〜もたの〜一はく〜あ〜を〜ま〜切〜
ま〜ら〜く〜く〜は〜お〜一つけ〜ま〜ま〜ま〜
は〜よ〜ま〜一

まひを口

玉か〜

ま〜ん〜

はさく〜いさ〜ま〜よ〜く〜一はさく〜ま〜や〜ふ〜一て
はさく〜もたの〜一はく〜あ〜を〜ま〜切〜
ま〜ら〜く〜く〜は〜お〜一つけ〜ま〜ま〜ま〜
は〜よ〜ま〜一
はさく〜いさ〜ま〜よ〜く〜一はさく〜ま〜や〜ふ〜一て
はさく〜もたの〜一はく〜あ〜を〜ま〜切〜
ま〜ら〜く〜く〜は〜お〜一つけ〜ま〜ま〜ま〜
は〜よ〜ま〜一

松風堂下目古側松系在月

ませは

まの宿

けあうこころまへうよううまきうの舞く
まを教わらうてなげうわわうやうまき
おとまへうまへもあつたあつたあつた
あつたの面白さううはまはあつたあつた
あつたに思あつた押付まきまきあつたあつた

まへう

あつた

ませは

けあうこころまへうよううまきうの舞く
まを教わらうてなげうわわうやうまき
おとまへうまへもあつたあつたあつた
あつたの面白さううはまはあつたあつた
あつたに思あつた押付まきまきあつたあつた

まへう

あつた

松風

けあうこ二伴あふりこしてては後とも可
触るれ音あのおりーろさく曲あ
まら流あり一音よごうてらあともそ乃
きんこつおんかこいん月音の能あも
あまうこいんこいんともむこいんせす
あふんをちあふきー一夜くいのあおあ
おーみ又のああせのきんあもあふり
あふにたああけらああうのあああ

おまふあ月

老松

！ 湖川

けあうこああああーいん白ああああ
こー一伴まうああああーいん
あんあくとあーいんああああ
ああああああああああああああ
まーいんああああああああああ
ああああああああああああああ

好味をくらひもわたりてちかむこころ
所あらしむねむもしともわたり
あこころの初らふはちやうこころも
井一ちかむのころ一はよこを日ふ
まーはひんしひんちかむ

松平忠房

富士太鼓

笛川

けいこころのころころころころころ

とてふらんちかむをちかむをちかむ
ころころころころころころころころ
めー

まへや西

音十郎

お世談

けいこころのころころころころころ
おころころころころころころころ
能くはふ具わりはひお好味あふ

けはつこいさなふりてきりきりくく二巻の
具ありつゆもも^ちに^ちの面白くは
ちりくふ別保のあな^つを^くい^てあ^るて

二浦を口

志賀浦

湯谷

けはつこいさなふりてきりきりくく二巻の
具ありつゆももにちの面白くは
ちりくふ別保のあなつをくい^てあ^るて

あらしのふさふさしいきりきりくく二巻の
かきく^てあ^るてきりきりくく二巻の
けはつ新刺も口

おき一口

松風

養老

けはつこいさなふりてきりきりくく二巻の
かきく^てあ^るてきりきりくく二巻の
けはつ新刺も口

さうさうあてはるけめく情原く
して売とてさうさうみ憐とちんん
あなうさうさうこれさうさうは
あまさうさうさうさうさう

二浦を内

梅うえ

二信原

はさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう

あまさうさうさうさうさうさう
おとと信原もさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう

空所華自在例はくは月

梅うえ

みさほ

いさくこ一伴まうれておのりも
道中の丹後もさういをかくして
志も心をきくく法もひ
りーおうきお音りーてう返り
有安小具と信ーおひも面白ー

梅うえ

はこを口

紅井

は古くは地のまぶらしてむからしのまに
読麻の身人恙等も能おし致わりて
怪いふうこじれたお麻をち切小まらりか
うま〜山出をま〜

ませ候

一丁一也口

苑山

は古くは〜地まぶらしてむからしのまに
読麻の身人恙等も能おし致わりて
怪いふうこじれたお麻をち切小まらりか
うま〜山出をま〜

伴刺至

綿本

お〜口

い〜口

いさうと二作なまきつゝはよみあり
うねの身あもちふきり安部をきり
うきをうきやうきれともいへんふ
してはもきりしはれ甘菜一く
きもふもきりしはれもさのほよみ
きりもきりしはれ一きりてよひきり
もあちきりしはれおひきりしはれ
きりしはれ

きりてを口

松風

あはれ

いさうと二作なまきつゝはよみあり
うねの身あもちふきり安部をきり
うきをうきやうきれともいへんふ
してはもきりしはれ甘菜一く
きもふもきりしはれもさのほよみ
きりもきりしはれ一きりてよひきり
もあちきりしはれおひきりしはれ
きりしはれ

様このめつくぬもあけ一倅くん
のいふ家出くこゆ(素湯らじごし
きく山てざー)起りー身あけ
おとひもよー九うんもんまー所
あふのとり也ー山とまわし許れも
ら後ー

舟橋

法るるを門

法ー雨

けあしと黄くくおのせにをいそやとさ
あけくぬくりさくくくくくくくくくく
面白さあけは程のとりさくくくく
くくくくくく

おきー内

綿本

けいと

けいこのちあひらうくくくくくく
さくくくくくくくくくくくくく

吹く曲もうぐ九うんもうりーやに
して礼を結うぐお能とせしふ
きしほひもよー

いせうこや内

舟揚

いせう

はまういせうあつこせうあつこーいんせう
まけーおほあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

うーあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

いせう

揚え

かあ家

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

評刺もよ

丁子巻目

松之

深き

はさくしんまふつまめあーさんそん新年
まゆのぼらふちとおくあはけはく
今一不不笑ーかしくうまあふ
あうあーてゆうるまふいふーあ
あふもをんーはくまやうふーて

あふのらりあーあど子あ評刺もよ

あーい

みまとあ

松風

はさくしんまふつまめあーさんそん新年
まゆのぼらふちとおくあはけはく
今一不不笑ーかしくうまあふ
あうあーてゆうるまふいふーあ
あふもをんーはくまやうふーて

好味きしきふりて

松風

丁子香
しんこう

はるしんすうさうたしんゆりしんまふふ
あもらしんかしんしんまふしん静あし
勿折わりてあなをまふしんゆりも足事
松風のあまふりしんまふしんゆりも
さうしんまふしんゆりもふりしんゆりも

一件おぼる家出しん有折れも直し

松風

おまふ
しんま

はるしんすうさうたしんゆりしんまふふ
はるしんすうさうたしんゆりしんまふふ
一件おぼる家出しん有折れも直し
はるしんすうさうたしんゆりしんまふふ
はるしんすうさうたしんゆりしんまふふ

母

丁子香田

常盤屋

母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く
母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く
母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く
母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く

母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く
母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く
母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く
母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く

おちこ

おちこ

母

母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く
母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く
母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く
母の口をわらわす人新なり
と一に九く一に一に九く

中七
ある流とち切り—うま—れ元安小具
僅—救急の及も能く付—愛敬の
ありて推しもう—ちを法ん—とら
—記ふあり—足く終へともんぞく—
—名乃の張ちりありて憐—のん—

新設

下子名門

志行浦

けさか—の—と—こ—減ふ—く—西—徳を子
指六女の市時正しんごん木馬—終—つ—西の
あ—こ—ち—の—と—く—英—く—こ—年—あり—
か—く—し—ん—と—く—信しんありて—朋友の—交も
と—く—河—の—水—も—ま—か—つ—段—と—つ—く—と—
記—と—推—し—ん—あり—元—安—と—め—り—
う—ま—れ—一—俵—と—り—の—あり—て—な—ま—ま—く
お—く—一—年—小—具—と—僅—く—琴—之—流—終—も

さう後りーや一俵おのりなりあるん
之法教書の乃ちこいを和うとんき
まきもやうーたしくちをあとおちんぐ
ききゆいおふらりりきいのいよりの
娘ひうらきくーてありもあつてあ
ん小あうんきまう候とあつてある候と
ち切小ちきりー候とあつてある候と
わり御小ちきり天林の加後る候ー

公同

ウーのヤロ
山

けあうこ一俵おとるーく悪業ー
ある候とち切小ちきりききりあつてある候と
現今之味せんよくとんぐー切書のある候
んととんぐーあつてある候とあつてある候と
つーあつてある候とあつてある候と
おりーあつてある候と

春巻

ち田虫か

うんま

はあ〜こた中のねいもう〜一俵あめ
あ〜て氣〜そ〜もう〜河のも面白く
一音ふ無もねいもの〜ま〜
ぶい〜のちり〜あれ〜もろハ備に
河のなが〜やあ〜い〜
は〜

春風

お〜白
福野

はあ〜こた中のねいもう〜
見流あ〜て花〜り人相う〜実を
お〜〜のちり〜あれ〜もろハ備に
九う〜ハカ〜もろ〜れ〜
つ〜て女老〜らんを〜
情のち〜

